



『惠信尼消息』を参考に、  
御夫婦の美しい信仰生活を  
描きました。

# 宗祖と惠信尼公

『惠信尼消息』をもとにして、親鸞聖人と惠信尼さまが  
体験された「夢告」にスポットをあて、お二人が敬愛の  
お心で生活をされ、『教行信証』をお書きになり、京都  
に帰られるまでを描いた作品です。

●二人の夢  
親鸞聖人が二十九歳の時、比叡の山を下り、「生死いずべき道」を求め、都にある六角堂に百日参籠されておられました。九十五日目の明け方、夢の中に救世菩薩が聖僧の姿で現われ、聖人に告げられるには、「行者宿報設女犯、我成玉女身被犯、一生之間能莊嚴、臨終引導生極楽」と、夢のお告げを頂かれ、救世菩薩のご化身が現れたのでした。玉女とは惠信尼さまのことです。

●二人の夢  
親鸞聖人が二十九歳の時、比叡の山を下り、「生死いずべき道」を求め、都にある六角堂に百日参籠されておられました。九十五日目の明け方、夢の中に救世菩薩が聖僧の姿で現われ、聖人に告げられるには、「行者宿報設女犯、我成玉女身被犯、一生之間能莊嚴、臨終引導生極楽」と、夢のお告げを頂かれ、救世菩薩のご化身が現れたのでした。玉女とは惠信尼さまのことです。

その後、稲田で『教行信証』をお書きになった親鸞聖人は京都にもどられ、惠信尼さまは新潟県上越市板倉区に、四人のお子様と帰られました。末娘の覚信尼さまは、京都におられる親鸞聖人のおそばでお仕仕をなさいました。

越後におられる惠信尼さまは、そのため覚信尼さまと、お手紙のやり取りをなさっていました。それが『惠信尼消息』といわれ、大正十年(1921)西本願寺から十通発見され、親鸞聖人を知る貴重な資料となっています。

参考図書／惠信尼さま 大谷嬉子 本願寺出版社・惠信尼文書の考究 梅原真隆・親鸞とその門弟 正統 宮崎園遊  
親鸞集 名畑応順 多屋頼俊・惠信尼公 藤島達朗 法蔵館・惠信尼物語 蒲原霊英・親鸞とその家族 今井雅晴 自照社出版  
妻惠信尼からみた親鸞 山崎龍明 NHK出版・真如の月 木村学司  
絵／小早川好古 ナレーション／広沢はる美 台本／すねいるシナリオ工房 発行者／久保尚志

◆通販お申込は 電話・FAX・郵便はがき・  
メール・インターネットで…

**075-343-0240**

制作・著作・発売元

インターネットショップ  
http://www.snail.co.jp/  
メール info@snail.co.jp

仏教伝道教材の

**すねいる**



**宗祖と惠信尼公**

発行日 2007年10月10日 26分 定価3,800円 (税込)